

TOKEI SHIMPO

N0. 6

東京新報

第六號



フルベツキ師演舌前號ノ續
零史ノ續
第二回演舌○修身學ノ事
耶蘇教會史零

明治十年一月十五日 每月六回

三
二
一
〇
九
八
七
六
五
四
三
二
一
〇
九
八
七
六
五

始



賢女守トモ榮譽トモ

如シ強者之守ルカ

貨財トモ慈心者ハ

益シ己之靈トモ唯

殘忍者ハ自擾ニル

其身ヲ

東京新報第六號

○フルベツキ師演舌前號ノ續キ

編者聞記

然リト雖モ未開ケザル朝鮮ナヨウセン台灣ダイワン等ノ如キ蠱愚カバノ人民ハ此ノ理ヲ知ラズ動カモスレハ外人ヲ惡ムアリ獨リ朝ナヨウ台マニダイワン等已ニナラズ支那セイナノ如キモ此弊ハ免セレザル者アリ又世間往々之ヲ疑ヒ此ノ說ヲ駁シスル者アルガ如シト雖ニ是レ我輩ノ服セザル所也請試ミニ之ヲ述ベン夫レ社會ナル者ハ其數枚舉カズカソブル暇イトアラズト雖ニ要カシシスルヨ一ノ目的メアラナクンバアルベカラズ縱タトベ令ハ一國ノ目的ハ政府也商人ノ目的ハ利ニアリ學者ノ目的ハ學問ノ進步ニアルガ如シ夫レ此ノ如ク皆然リ獨リ人間社會目的ナクシテ可ナランヤ而メ人間社會ノ目的ハ幸福ヲ求ムルニアル己ミ今之ヲ細論クワシクスレハ上帝カミノ意ニ從ヒ天下ノ真理マコトニ基モトツキキ

之ヲ以テ世ノ害惡ヲ除キ去リ益々社會ノ進歩ヲ致スニア
ル也然リ人間社會ノ進歩ハ眞誠ト道理ニ因ザレハ能ハ
ズ假令其勢力盛ナルモ其威權大ナルモ苟モ眞誠ト道理ニ
叶ハザレハ永ク之ヲ全フル能ハズノ衰弱ニ陷ルコト必
セリ然テハ眞誠ト道理ハ果シテ何者ト云ニ聖典ノ眞ト萬
物ノ道理ニ適フ者ナ云フ歐洲今日ノ開化進歩ニ至ル者蓋
シ是ニ根ザス所也苟モ之ニ因ザレハ社會ノ進歩幸福ヲ得
ザル也而メ社會今日ノ進歩ヲ昔日ニ比スレハ其相異ナル
事アリテ其妨害トナル者甚ナカラズ此害タルヤ假令至小
怡モ小兒ノ成長スルガ如シ然ルニ此成長ノ際種々ナル惡
ナルモ其弊害殆ント社會一般ニ差響ナ生ズル者也譬ヘバ
人身ニ一痛所アレハ爲メニ全體其不快ヲ覺ユルガ如キ者ニメ
社會中ニ蔽害アレバ遂ニ全社會ニ波及スル亦自然ノ理ナ
リ故ニ善モ亦之レニ同ジ一家ニ善人アレバ一家榮エ一村
ニ正人アレハ一村ノ名譽トナリ一國ニ英傑アレバ一國盛
大ニ至ル也古昔獨逸ノルサル教法改革セシ當時ノ目的ハ
蓋シ目前ノ弊害ヲ救フニ在テ全世界ニ利益ヲ與ルノ大望
アラズト雖トモ方今其鴻益文明諸國ニ波及セリ又和蘭人
ノ萬國公法ノ述作ニ於ル其始小ナル如シト雖ニ則チ眞誠
ト道理ニ適スル者ナルガ故ニ其功倣甚タ廣大ニメ今日全
地球ノ人間社會中ニ利益ナル果タ幾許ツヤ故ニ人々眞誠
ト道理ヲ以テ社會ノ進歩ヲ謀ル寸ハ益々惡害ヲ去リ眞誠
ニ赴キ幸福ヲ得ルニ至ルベシ然リ而メ今時ノ人間社會ハ
進歩ノ極ニ達シタルカ將タ然ラザル者ト爲ス歟我輩正ニ

言ハントス今ノ人間社會ハ
時機ナリト故ニ一方今ノ人タル者ハ勇敢ノ氣象ヲ
誠ト道理ニ基キ心力ヲ盡シ社會ノ進歩ヲ妨害スル惡物ヲ
除去シ以テ愈々世界一家ノ親交ヲ全フシ上帝ノ意ニ戾レ
コナク人間社會ノ目的ナル幸福自由ヲ全フセントチ我輩
世界ノ兄弟ト共ニ深ク切望スル所也

編者曰ク師ガ演話ナシ以テ悉ク之ヲ紙上ニ載セバ數葉ノ能ク記得ル所ニアラズ故ニ要チ撫ヒ綱チ舉ケテ記スル所此ノ如シト云爾

谷道人

二宗ノ僧徒之ヲ危ブニ速ミ
諾セズ衆チ會シテ之ヲ議シ次
トカリ屢々信徒チ説誘シ勸懲

シ 貧缺 ナ 施助 シ 悉ク浦上チ 合信セントス

會史氏曰 我之チ 大村ノ人ニ聞ク 佛國教師ノ西教 ナ 浦上

ニ 宣布スルヤ頗ル心力ヲ盡セリ而メ常ニ富人ニ誠ムル

ニ 必テ大貧民ヲ助扶スヘキチ以テス故ニ貧民産業ヲ怠

タリ其助扶チ仰グ者アルチ以テ田苑ノ荒蕪ニ至ル者頗

ル多シ官ノ土民ヲ收捕スルモ唯其敷ノ滋蔓ヲ拒ク已ナ

ラズ亦タ其怠業ヲ責ムルナリト夫レ或ハ然ラン吁信徒

フ侃々屈セズシテ上帝ニ堅キハ弱信者ノ最モ奮振メ檄

法スベキ所也唯其怠業ヲ以テ自カラ官府ノ責罰ヲ招ク

ガキ如キハ未タ瑕疵ナシト云ベカラス我信徒ノ爲ニ之

チ惜ム

明治元年英國教師恩索斯他二人長崎ニ來リ新宗ヲ説ク(次)

○脩身學ノ事 柴田清照君演舌

鈴木舍定聞書

學問ニ數課アリ曰法律曰理學曰醫學曰脩身學等ナリ而テ

此ノ中又數多ノ支科アリ譬へバ醫學ニ內科外科等アルガ

如ク種類ノ最モ數多ナル者ハ理學コレ也天文。地理。動植物。

金石。分析。測量等ノ如キ皆ナ理學ノ部分ナリ其レ斯ノ如ク

學課ニ數種アリ故ニ學コ從事スル者ハ宜ク其好ム所チ専

門トシ益講究シ精密ニ蘊奥ヲ探盡セサル可ラス然リト雖

モ理學ナル者ハ要スルニ事物ヲ明了講究スルノ一器具ニ

過サルノミ然リ而テ脩身學ナル者ハ心ヲ善良ニシ行チ正

實ナラシムルノ良具ナレバ亦タ之ヲ學バサル可ラサル者

トス歐州文明ノ諸國ニ於テハ既ニ脩身學ハ人間ノ欠ク可

ラサル一大肝要ノ學課トシテ必ズ之ヲ學バシム然ルニ我

國ノ如キハ維新以來脩身ノ道大ニ衰ヘ世人モ之ヲ務メズ
唯功利ノミニ孜々トシテ動モスレバ孔孟ノ道ハ迂闊ナリ
脩身學ハ不用ナリ宗教ハ愚人ノ信ズル所ナリトシ徒ニ
形眼飲食ノ末チ摸擬シテ開化ヲ得タリト誇リ甚シキニ至
テハ學士論士ト雖モ驕奢淫佚輕薄ノ醜行チ極ハムルノ輩
アルニ似タリ斯ノ如キ醜風ハ素ヨリ脩身上ノ許サドル所
ナリ獨リ脩身上ノ害トナル已ナラズ國家オ害スルノ慘毒
ナレハ苟モ國ヲ憂フルノ士ハ之等ノ弊害ヲ除去セントチ
務メサル可ラサルナリ
千七八百年代ノ頃佛國ノ人民ハ淫賣ノ醜風ヲ極ハメ其ノ
害政務コ波及シ終ニ政府ノ改革ナ釀シ流血ノ大害ヲ生シ
クルニ非ズヤ而シテ此ノ醜風ハ貴族紳士ノ間ニ最モ盛ン

ナリキ之レニ因テ觀レハ縱令理論ニ巧ミナルモ智識ニ富
ムモ輕薄淫侈ノ醜風ニ流ル、時ハ一身ヲ誤ル已ナラス到
底國ノ妨害ナリ來タス者ナリ然リ而シテ前文ニ述ベシ如ク
方今我國人民ノ風俗ハ概チ驕奢ニ流レ淫褻ニ走リ輕薄狡
猾ニメ實ニ道德ノ道地ヲ拂フニ至レリ嗚呼今コシテ此ノ
弊害ヲ救フノ道ヲ設ケザレバ或ハ佛國ノ如キ大害ノ釀生
セシモ又測ルベカラス之ヲ救フ道他ナシ脩身學ヲ盛大ニ
シ全國ニ治テカラムル片ハ醜風ノ漸々消失スルコ庶幾
ンカ然リ而シテ脩身學ナル者ハ宗教ニ如キ大害ノ釀生
バ須ラク先ツ宗教ノ眞理ヲ研究セザルベカラス若シ然ラ
スシテ脩身法ヲ設立セントスル片ハ未ク脩身ノ眞理面目
ヲ盡ス能ハサルナ知ルベキナリ

我輩ハ又タ宗教家ニ向ツテ一言セザルベカラザル者アリ學識智能アリト雖モ修身學ノ以テ心チ善良コシ行チ正實ナラシメサルベカラサル所以ノ者ハ既ニ論述シタルガ如シト雖モ唯教法ニノミ是レ因リ智識ノ發達チ務メ大理學ヲ講究セズ時勢ノ如何チ察セズ唯古昔ノ說ニ明カニシテ今日ノ理論ニ暗ラク遂ニ論者ノ侮チ受クルガ如キコ至ル者古今宗教家ノ免ガレ難キ者アルニ似タリ其ソスノ如クナレバ縱令品行ノ正シキナ致シ心ノ實直ナルモ世俗ノ所謂結構人ト一般コシテ更ニ一定見ナク一論論ナク人ノ玩物トセラル、ニ至ル夫レ智識ナル者ハ上帝ノ賜ナリ何ツ之ヲ練磨セサルノ理アランヤ學ト教ト兩立メ始テ人類ノ本分ブシタタル者ト謂ベシ故ニ偏スルコナク教學共ニ務ヨ

○耶蘇教會史畧 美國惹迷斯威李原選
耶蘇降世第一百年期 千村五郎譯

發端第一

耶蘇教會史ハ。吾救世主耶蘇基督ノ降世チ以テ始ル。新約書ニ載セタル。四福音傳ハ。舊約已ニ終テ。新約方ニ立ナシ所ノ。至要至妙ノ史ナリ。其新約ノ道ニ從テ。教會ノ建立セルハ。救主升天ノ後。五旬節ニ於テ。使徒咸集リシ片。衆ニ真理ナ賦スル爲ニ。聖靈ノ臨降セシ時ニ在リ。此ニ至テ。使徒至上ヨリ異能ノ賜ナ受ケ。傳道ノ職分ニ協フチ得タリ。此後聖靈毎ニ引導メ。或ハ其職ナ奉セシメ。或ハ書ニ筆セシメ。又其行事ナ監臨メ。舛錯ニ陷ルナ免レシム。哥林多三章九節。其洗禮晚餐ノ二聖禮ハ。耶蘇ノ親自ラ設ル所ナリ。而シテ會中ノ職事、禮拜式、政治、

訓戒ハ皆使徒ノ聖靈ニ感メ定ル所トス。

教會史ヲ分ケテ内外トス。即テ其會内ノ史ハ道ノ眞偽人ノ虔敬外禮、禮拜式、訓戒、規律ヲ載ス。會外ノ史ハ眞道ノ傳播ノ。其順逆興衰ヨリ天下國家ノ教會ニ關涉スル者ヲ記ス。而ノ年代ニ從テ分テ四大段トス。

第一耶蘇降生ヨリ羅馬國ノ君子坦丁大帝ニ至ル。

第二君士坦丁大帝ヨリ介理美ナリ。帝王ノ首メテ。

第三介理美ヨリ佛蘭皇ノ威勢方ハ約七百五十年ノ人ナ

第四路得ヨリ。今日ニ至ル。已上ノ各四大段ナ。更ニ分ケテ。百年トシ。各百年ヲ以テ一章トス。

編輯兼印刷鈴木舍定

改正定價

一冊二錢五厘六冊前金十四錢十八冊前金四十三錢三十六冊前金八十錢

府外遞送ハ此外ニ郵便稅ヲ受ク

十
字
社

本
局

東京銀座三丁目十六番地

賣

東京芝日影町一丁目一番地
横濱浜吉田町一丁目
神戸中山町一丁目
東京虎ノ門外琴平町
同淺草駒形町三十二番地
同靈岸島長崎町壹丁目十四番地
東京小川町十一番地
同赤坂裏一丁目五番地
同富士見町一丁目五番地
同草黒船町三番地

徇鐸支社

參赤堀文中塙丸野石博雜堤十字
川口村田屋呂黑文報誠屋太支
觀五開正清翠善清兼藏堂社郎店
兵舍衛善堂助麓吉七

劉

終